



110th
Anniversary of Our
First Female Students

女子学生誕生110年 | 文系女子学生誕生100周年記念展示

日本初の女子大生

黒田チカから 一世紀のあゆみ

大正二年（一九一三）八月二十一日、三人の女性が東北帝国大学理科大学に入学許可され、わが国初の女性「大学生」が誕生します。日本初の女子大生となった彼女たちの名前は、時代を切り拓いた女性として、百年を経た今もお語り伝えられています。
ではなぜ東北帝国大学だったのか。また、彼女たちはどのような環境の中で、大学を目指し、その後どのような足跡をたどることになったのか、東北大学が創立以来掲げる「門戸開放」の理念とともに、その挑戦を今回の展示では紹介します。



会期

2023

10.7^土 → 12.22^金

【開館時間】

10:00-17:00

（土日祝は11月5日(日)まで開館、16:30まで）

入場
無料

会場

東北大学史料館 2階展示室（ご来館の際は公共交通機関をご利用ください）

【主催】

東北大学史料館

【後援】

東北大学DEI推進センター

【問い合わせ】東北大学史料館 〒980-8577 仙台市青葉区片平 2-1-1 TEL 022-217-5040

E-mail desk-tua@grp.tohoku.ac.jp Web http://www2.archives.tohoku.ac.jp/

史料館の最新情報



日本初の女子大生

黒田チカから 一世紀のあゆみ



黒田チカ



丹下ウメ



牧田ラク

日本初の 女子大生

今から100年以上も前、1913年に3名の女子学生(黒田チカ、丹下ウメ、牧田ラク)が東北帝国大学への入学を許可されました。当時の日本ではまだ大学への女子の入学は認められておらず、文部省(現在の文部科学省)から「本当に入学を許可するのか?」と問いただす文書が送付されるなど、社会に大きな波紋を引き起こしました。しかし、当時の総長の北條時敬は、前例のない女子学生の入学許可を断行しました。



学位授与の記録。「十一月十八日佐賀県士族黒田チカに理学博士の学位を授く」とある



黒田チカ標本(紅花の色素カーサミン)

文系学部が 果たした役割

東北帝国大学では女子大生の入学は、1913年の3名の後はしばらく途絶えてしまうこととなります。再び女性が正規入学するようになったのは1923年のことでした。この年から毎年コンスタントに女子学生の入学者がみられるようになった起爆剤が、1922年の法文学部の設置でした。それまでの理学部、医学部、工学部に加え、東北帝国大学は文系学部を擁することになり、名実ともに総合大学としての歩みを進めていくこととなります。戦前は、理系に入学した女子が25名であった一方、文系においては104名が入学しています。



法文学部の女子大生を中心とした親睦組織である芝蘭会の会合。1936年(昭和11)頃

一人一人の 思いを紡ぐ道

東北大学では1949年(昭和24)の新制大学発足と共に41名の女子学生が入学。戦前には見られなかった医学部や工学部などに入学する女性も徐々に増えていきます。1999年「男女共同参画社会基本法」が作られ、2001年から本格化した男女共同参画の歩みにより、1992年4.6%だった女性教員(助教、助手、クロスアポイントメント、業務委託含む)比率は、2023年に20.2%となりました。

今回の展示をきっかけに黒田チカ資料も公開されます。日本における女子大生誕生から110年のあゆみを振り返り、より多様な人の思いをつなぐ、皆が力を発揮できる大学を目指していきましょう。



東北大学史料館

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1

TEL. 022-217-5040

[E-mail] desk-tua@grp.tohoku.ac.jp

[Web] <http://www2.archives.tohoku.ac.jp/>

